

(笑)を何と読むべきか：EC2010 原稿サンプル

倉本 到^{*1} 伊藤 雄一^{*2}

How to Pronounce (lol): A Sample Document for EC2010

Itaru Kuramoto,^{*1} Yuichi Itoh^{*2}

Abstract — エンタテインメントコンピューティング技術に関する研究は百花繚乱であり、過去数多くの素晴らしい技術や作品が公開されてきた。しかし、われわれはまだ「面白さ」というものが一体何に起因しており、何がそれを活性化し、何がその要素であるのか、つまり「面白さとは何か」という問いに連なる答えを手に入れたと確証するには至っていない。
エンタテインメントコンピューティング 2010 は、「エンタテインメント(笑)」などと揶揄されない、面白さに対して真摯に向き合うことを目指し、テーマを「EC2010-(笑)~面白っておもしろい?~」とした。本稿では EC2010 の目的と論文フォーマットについて、さらに(笑)を何と読むべきかについて議論する。

Keywords : EC2010, (lol), fun, entertainment

1. はじめに

有史以前より現在にいたるまで、エンタテインメントはわれわれ人間の日常生活を豊かにしてくれるために必要不可欠な要素のひとつであり [1], その種類も内容も多岐にわたっている。そして現在、最先端科学技術のひとつであるコンピュータ技術が、生産性や速度、効率の枠を超えてこのエンタテインメントをも支援する主要な技術となりつつあることは言うまでもない。

エンタテインメントコンピューティング (EC) は、このようなエンタテインメントに適用するために研究開発されたコンピュータ技術を広く公開し、その最先端の知識をやりとりする学会会議として、2003 年より毎年開催され、2010 年に開催される本ワークショップが 8 回目となる [2]。

さて、これまでの EC では、数多くの素晴らしいエンタテインメントコンピューティング技術や作品が公開されてきた。しかし、振り返るとわれわれはまだ「面白さ」というものが一体何に起因しており、何がそれを活性化し、何がその要素であるのか、つまり「面白さとは何か?」という問いに連なる答えを手に入れているとはいえない。このことは、ともすれば本来われわれが追及していたはずものとは異なる、他の人たちから「エンタ

テインメント(笑)」などと評される何かに迷走している可能性があり、問題がある。

そこで、本稿で論じる本年度の EC はこの本質である「面白さとは何か?」に立ち返ることを目指し、エンタテインメントにかかわる数多の人たちにそれぞれが考察する、あるいは追求してきた「面白さ」を語り、互いに議論することで「面白さ」とは何かを明らかにすることを目的とする。

このことは(笑)付きで揶揄されることのない、真に意味のある「面白さに関する議論」を、本年度の EC に参加するすべての皆さんと実現することができ、極めて意義深いものになると考えられる。

2. 原稿の作成

1. で述べたように、全ての発表者に同等に議論の場を提供するためには、適切な発表形式を柔軟に選択することが肝要である。発表の中には理論構築が主であるために口頭発表が適切なものもあれば、実体験による直感的理解が発表内容の理解を促進するためにデモ発表が適切なものもある。にもかかわらず、これまでの多くの学会会議では、デモ発表やポスター形式発表の論文は口頭発表のものより低く見られがちであり、そのページ数も少ない。

そこで EC2010 では、口頭発表とデモ発表の原稿格差を撤廃する。すなわち、両発表とも原稿フォー

^{*1}: 京都工芸繊維大学, kuramoto@hit.is.kit.ac.jp

^{*2}: 大阪大学, itoh@ist.osaka-u.ac.jp

^{*1}: Kyoto Institute of Technology

^{*2}: Osaka University

1: ここでは科学者, 技術者, 芸術家, 企業関係者, そして受益者である市井一般の人々を指す

マットおよび制限ページ数を同等とし、違いがないものとして扱う。論文フォーマットはこの文章が書かれているこの LaTeX および Word フォーマットを用い、原稿提出は pdf 形式のファイルで行う。

EC2010 にご投稿される筆者各位は、全ての投稿をこの定型フォーマットを利用して作成されたい。

なお、デモ発表に関してはこの定型フォーマットを使用して作成された原稿に加え、パンフレット用の原稿も必要となる(2.2 で詳述)。また、すべての原稿は USB メモリにて電子的に配布される。したがって、図表などにカラー画像が利用できるが、読者が印刷して利用する可能性もあることを考慮した上でのカラー画像利用を期待する。

2.1 定型フォーマット

本フォーマットは、一般的な予稿集と同様の、EC2010 規定フォーマットである。

フォーマットは LaTeX 形式および Word(.doc) 形式の 2 種がある。それぞれ、エンタテインメントコンピューティング 2010 のウェブページ上で配布しているので、それらを利用することが望ましい。

また、本フォーマットを用いて提出用の pdf ファイルを生成するに際し、下記の注意を熟読されたい。

- フォントはすべて pdf ファイルに埋め込むこと。埋め込まれていない場合、期待通りの仕上がりにならない点、ご注意いただきたい。
- pdf ファイルのセキュリティ設定は「なし」とすること。
- 口頭発表・デモ発表など、全ての発表における発表原稿の最大ページ数は 10 ページであること。
- 余白の取り方は図 1 に従うこと。図表などの Overfull などにご注意いただきたい。
- ファイルサイズは原則 20MB 未満とするが、どうしてもサイズが大きくなる場合は EC2010 実行委員会および PC 委員会と相談すること。

2.2 デモパンフレット用フォーマット

デモ発表の著者は、上記定型フォーマットに加えてデモパンフレット用フォーマットの提出が必要である。本パンフレットは、デモ発表聴講者の利便性のために提供される。ここで注意すべきなのは、デモ発表聴講者には非学術研究者が多数含まれることにある。すなわち、一般的な予稿のように、読者に一定以上の学術的知識を期待することは望ましくないことに注意する必要がある。したがって、本パンフレット用原稿は、発表者諸氏

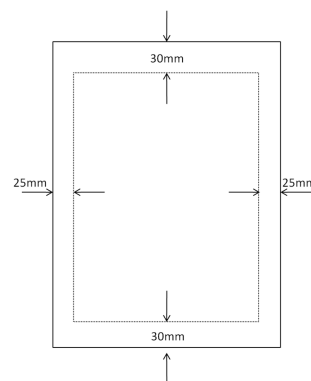


図 1 ページの余白

Fig. 1 Page configuration

の研究内容が直観的に理解できるような表記になることが望ましいといえる。

フォーマットは A4 サイズ横置きとし、全面利用可能なフリーフォーマットである。カラーや画像利用、文字種別やそれらの配置に関する制限は特に設けない。ただし、冊子体編集および印刷の都合により以下のことに注意されたい。

- パンフレット原稿は原則 pdf ファイルとするが、Adobe Illustrator (.ai) ファイルでの投稿を強く希望する場合は、EC2010 実行委員会および PC 委員会に相談すること。
- 各原稿は印刷時 ほぼ A5 サイズに縮小されることを見越して作成すること。特に実寸大画像を原稿に利用したい場合は注意されたい。
- 印刷時、各原稿の周辺には数 mm 程度の余白ができる。枠外を利用したデザインをする場合には注意されたい。
- 印刷の都合により、若干色目や色調が変わることがあること。なにとぞご了承ください。
- フォントはすべて原稿ファイルに埋め込むこと。埋め込まれていない場合、期待通りの仕上がりにならない点、ご注意いただきたい。
- pdf ファイルのセキュリティ設定は「なし」とすること。
- ファイルサイズは原則 20MB 未満とするが、どうしてもサイズが大きくなる場合は EC2010 実行委員会および PC 委員会と相談すること。

原稿事例が EC2010 のウェブサイトからダウンロードできるので、それを確認されたい。

2.3 フロアプラン

EC2010 におけるデモ発表は、最低 1.8m 四方、原則最大 3m 四方のデモ発表スペースを提供する。

フロアプランとは、このデモ発表スペースをどのように用いるかを簡潔に記した図表のことをいう。本フロアプランは、デモ展示の配置を決めたり、電力量の調整を行ったりする際に EC2010 実行委員会が用いる。

発表者諸氏には、下記のこと注意到意して明快に記載されたい。

- フロアプランは pdf ファイルにて、A4 サイズ 1 枚に記載すること。フォーマットは自由。
- 本フロアプランは実行委員会・PC 委員会内でのみ用い、外部に公開しない。
- 各フロアには長机、ポスター掲示ボードおよび椅子各 1 個が割り当てられる。サイズについては EC2010 の Web ページを参照されたい。
- 電源容量は原則 300W 未満とするが、かなり大幅に電力を利用されるデモ発表を計画される場合は EC2010 実行委員会と相談すること。
- 大きな面積が必要、あるいは照明状況や周辺音響状況について制約がある場合も、EC2010 実行委員会と事前に相談すること。
- ファイルサイズは原則 20MB 未満とする。

3. 発表に際して

本章では、口頭発表とデモ発表における注意を述べる。特にデモ発表参加者は該当節(3.2)を熟読されたい。

3.1 口頭発表

口頭発表は、発表時間 15 分、質疑 5 分の合計 20 分を持ち時間として行われる。会場ではアナログ(D-sub 15pin mini)形式のディスプレイケーブルを有するプロジェクタが利用できる。発表者は各自の発表用ノートパソコンなどをご準備いただきたい。

3.2 デモ発表

デモ発表は、土曜日(23日)と日曜日(24日)の2日間、各日およそ6時間程度ずつ発表期間がある。原則としてこの発表期間中は常時デモ発表を実施することを要請する。不慮の故障などを除き、デモ発表スペースを無人にしたり、発表を中断されることのないようご注意ください。これは、この2日間に(1.で述べたように)一般市民の方々が常時出入りされるためである。

しかし、この状態では発表者はいかなる他の発表を聴講することができない。その状態を解決するため、発表者は任意数の学生補助者を指定し、発

表の補助を依頼してよい。

学生補助者は発表者が指定する学生(学部学生・大学院学生またはそれに準ずる者)である。学生補助者は通常の学生聴講者と同等の権利を有するが、以下の点で異なる。

- デモ発表者が不在の際にデモ発表を継続する義務がある。
- 上記義務を有する代わりに、参加費を減額する。

学生補助者の登録は、以下の2ステップからなる。

1. 原稿提出までに、発表者が学生補助者指名を「備考欄」に記載する。
2. 学生補助者は、各自の参加登録の際に自分が学生補助者であることを明記し、その際に発表者が知っている Submission ID を付記する。

なお、デモ発表1件につき、必ず発表者を1名選出する必要がある。また、この発表者は複数のデモ発表で重複してはならないことにご注意願いたい。というのも、この形式では、発表者が同時に複数のデモを発表することは本質的に不可能であるため、そして、補助者はあくまで補助者であり、発表内容に責任を有する発表者本人ではないためである。ご了解いただきたい。

4. おわりに

本稿では、EC2010の目的と原稿フォーマット、発表についての注意をそれぞれ述べた。筆者らは、本稿により EC2010 での発表が円滑に、そしてより活発に進められることを願っている。

で、(笑)って何て読めばいいんだろう?「わらいけし」とか「わらいよせん」とかじゃあかっこ悪いなあ。

参考文献

- [1] Huizinga, J.: ホモ・ルーデンス, 高橋秀雄訳, 中央公論新社(1973).
- [2] エンタテインメント 2010 ホームページ, <http://ec2010.entcomp.org/>, (最終アクセス: 2010/07/02)。

2: もちろん発表者が事前に依頼して承諾されているものとする。EC2010 実行委員会は補助者の推薦を行うことはできない。